

*** 塔望遠鏡初期の観測装置・プリズム分光器のレンズ発見**

アーカイブ室新聞第337号に「塔望遠鏡初期の観測装置・プリズム分光器のプリズム発見と復元(2010年5月21日)」という記事を書いた。大型プリズム3個を使った分光器で、その3個のプリズムを発見し配置して復元したのだが、コリメータ・カメラ兼用のレンズは行方不明であった。アーカイブ室新聞347号に「天文機器資料館に展示の口径26cmのレンズにGRUBBの名盤があった」という記事のレンズの由緒来歴を調べていて、サイデロスタットのファイルの写真を眺めていたら、CARL ZEISS JENA f=345cmと書かれたレンズの写真(写真1)を発見した。この焦点距離345cmは塔望遠鏡のプリズム分光器の焦点距離である。このファイルは元国立天文台職員の入江氏から譲られたものであったから、入江氏の古巣の太陽の宮下君にこのレンズに覚えはないかと聞くと見た覚えがある、というので2人で探索に出かけた。



写真1 CARL ZEISS JENA f=345cmと書かれたレンズ

宮下君と探索の結果入江氏が管理していた保管庫でそのレンズを発見、さっそく塔望遠鏡の分光室のプリズム分光器のレンズホルダーに取り付けてみるとぴったりである。これ

は大きな発見であった。これでこのプリズム分光器としては完全復元である。

塔望遠鏡を組み上げた藤田良雄先生の天文月報第 28 巻第 3 号に載っている第 3 図プリズム分光器が写真 2 で、A がそのレンズである。

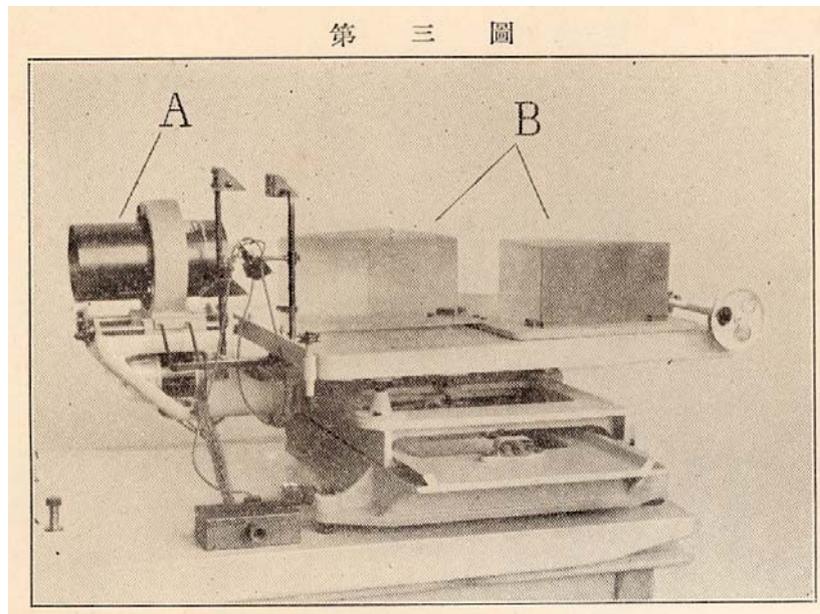


写真 2 第 28 巻の天文月報のプリズム分光器の写真

写真 3 が、今回、このレンズを現在の塔望遠鏡の分光室のプリズム分光器に装着した写真である。



写真 3 現在の塔望遠鏡のプリズム分光器に発見されたレンズを装着したところ

このレンズの発見の糸口になったのは、アーカイブ室新聞 347 号の記事を読んだ読者から、その記事のレンズはサイデロスタットと一緒に使われたものではないかという電話で

あった。このように、アーカイブ室新聞の記事を読んだ読者からの情報で新たな発見につながるようになってきたのである。うれしいことである。

この記事を書いている 2010 年 6 月 18 日には、奇しくも塔望遠鏡を組み上げた藤田良雄先生をお訪ねし、オーラルヒストリーのインタビューを予定しているのである。不思議な縁を感じる。

これらアーカイブ室新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp